

8-4-24 改定道路橋示方書連絡WG

1. 設置目的と組織

(1) 改定道路橋示方書連絡 WG 設置目的

国土交通省は道路橋示方書の改定作業を行ない、平成 29 年 7 月に通達、同 11 月に道路橋示方書・同解説が発刊、令和 7 年 10 月に道路橋示方書が改定された。

建設コンサルタンツ協会の会員が速やかに改定道路橋示方書の内容を理解し、調査・設計業務に反映させるためには、改定道路橋示方書の速やかな普及が望まれる。

このため、早期に改定道路橋示方書の改定のポイントと内容を周知すると共に、勉強会・講習会等を開催して会員の理解を深めることを目的として、本 WG が設置された。

本 WG は組織改編により、技術部会交通基盤委員会の下で、改定道路橋示方書連絡 WG として位置付けられた。設置目的と組織の構成は、従前と変わらない。

(2) 組織

委員長、副委員長は、道路協会道路橋示方書橋梁委員会委員または傘下の小委員会の委員。委員は、既存の委員会（本部統括技術委員会、支部技術委員会、道路橋技術相談窓口対応 WG 代表、公益活動 WG、道路構造物専門委員会、設計ソフトウェア連絡 WG）からも選出し、組織横断的な構成となっている。事務局：インフラ研究所（現道路橋技術相談窓口事務局）（委員 19 名、事務局除く）

2. 活動内容

令和 7 年度の改定道路橋示方書連絡 WG は、以下の 4 つのテーマについて、検討を行った。

(1) 令和 7 年道路橋示方書作成過程における意見照会

(2) 令和 7 年道路橋示方書作成過程における意見交換会および設計計算例検討 WG の開催（国総研を交えて実施）

第 1 回 4 月 7 日／第 2 回 6 月 3 日

第 3 回 8 月 1 日／第 4 回 9 月 1 日

第 5 回 9 月 30 日

(3) 令和 7 年道路橋示方書講習会の紹介と参加要請

(4) 令和 7 年道路橋示方書に基づく設計計算例の意見照会（ただし、以下の理由により発刊は中断された）。

道路橋示方書は要求事項を取りまとめた基準書であるが、その達成方法は示されていない。この達成方法の具体の例を示した書籍が「設計計算例」であり、暫定完成版に対して本 WG の委員をとおして本部・支部に意見照会を行ったところであるが、「例」を示すことにより、要求性能を満たしている手法が画一化されることになることから、発刊を中断。

現在、道路橋示方書の要求性能のみを箇条書きで抜き出し、「設計計算書」に何を記載すべきかを取りまとめた「設計の手引き」を作成中。

(5) 「新たな保全事業のあり方」意見交換会への参画（内容：公益活動 WG 参照）

3. 次年度活動予定

(1) 国総研よりの提言

a) 性能評価・診断小委員会は、道路橋示方書そのものを検討・作成している委員会であるが、現在、建コン本部の代表委員のみの意見となっている。

b) 国総研より、建コン協全体の意見として性能評価・診断小委員会に提案してほしい旨要請があった。

(2) 活動のあり方検討

a) 本 WG は本部が中心となって活動している橋梁委員会傘下の性能評価・診断小委員会での活動支援であり、意見照会や情報共有を行う WG であるが、国総研よりの提言を受け、以下の視点を取り入れて活動を行う。

b) 性能評価・診断小委員会委員が含まれる本 WG 本部委員と支部委員との連携を一層深める。具体的な方法として、定期的な会議の開催、支部の中に具体的検討委員会の設置を検討する。

c) 作成中の「設計の手引き」等道路橋示方書の理解を補うための講習会の開催を企画する。

(3) 「新たな保全の在り方」を構築するため、本 WG 活動を通じて対応組織を検討する。

（改定道路橋示方書連絡WG WG長 鈴木 泰之）